

夫の無精子症の診断によって TESE を選択した心情～妻へのアンケートより～

富谷友枝、島千怜、田上真由美、中川優子、森本義晴

【目的】夫の無精子症の診断によって TESE を選択した妻の心情を知る【期間・方法】平成 21 年 4 月から平成 24 年 12 月に TESE 施行の 117 名のうち付き添った妻にアンケート配布。【結果・考察】回収率 67 名。複数回答可。アンケートは、1 初めて夫が無精子症と聞かされたときはどのように思ったか？ ショックだった 48 名、やっぱりと思った 21 名、何を言われているのか把握できなかつた 6 名、無回答 1 名。2 初めて無精子症と聞かされたときの夫の反応はどうだったか？ ショックを受けていた 58 名、拒絶していた 0 名、何を言われているのか把握できていなかった 6 名、その他 5 名、無回答 2 名。3 夫婦で無精子症や TESE についてどのような話し合いをしたか？ 二人の意見を出し合い TESE 後のことまで話し合った 25 名、とりあえず TESE 後のことはそれから考える 20 名、話し合いはしたが TESE しか選択がないならやってみようと考えた 23 名、していない 0 名。4 夫に自身の気持ちを正直に話すことができたか？ 言えた 37 名、まあまあ言えた 20 名、あまり言えなかつた 9 名、言えなかつた 1 名。5 精子が採取できても体外受精を受けなければいけないがどのように思うか？ 嫌だけど仕方がない 4 名、子どもができるならしたい 55 名、夫も TESE を受けるしお互い様と思う 10 名、6 夫以外に相談できる方はいるか？ いる 52 名、いない 14 名、無回答 1 名。7 看護師にどのような事を聞きたいか？ いろんな話を聞いて欲しいなどがあつた。各自由記載では、夫婦共に無精子症の診断にそれぞれショックを受けてはいたが、話し合いはされていた。しかし、自身の気持ちを正直に言えない、子どもができない不安から夫を傷つける言葉を言って後悔する記述もあつた。夫以外の相談者は、実母が多かつたが誰にも相談できず不安を抱え込んでいる方もいた。看護師の関わりを求めている事もわかつた。